

会 議 録

会議の名称	令和8年度 第2回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和8年8月25日（火） 午後2時00分～午後4時15分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修（委員長）、赤坂 悦（副委員長）、荒井 義浩、森末 桂子、安達 さやか、高柳 進、牛窪 雅由、加藤 晴喜、吉田 早苗、小松 君恵、安田 茂也、高橋 祐二、國分 巧、大島 隆代
欠席者の氏名	堀 謙作
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主任 飯塚 貴之
議 題	1 開会 2 議題 （1）第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和7年度実績）について （2）第4次所沢市地域福祉計画の素案について （3）所沢市地域福祉推進委員会の運用について 3 その他 4 閉会
会議資料	・会議次第 ・委員名簿 ・令和8年度第2回所沢市地域福祉推進委員会（スライド資料） ・資料1 【骨子】目標案と施策の方向性案について ・資料2 地域福祉計画素案 ・第4次所沢市地域福祉計画表紙案 ・席次表
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04（2922）2115 瀧澤福祉部長 大館福祉部次長 木下センター長 新井副主幹 轟主査 飯塚主任

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	1 開 会 開会を宣言した。
小野塚市長	○令和8年6月1日付けで委嘱された委員の委嘱状を交付した。
各委員	2 市長挨拶 ○委員等の自己紹介 各委員より自己紹介を行った。 ※ここで市長は公務のため、退席
事務局	○事務局職員紹介 各職員より自己紹介を行った。 ○欠席者の報告 堀委員
瀧澤部長（進行）	○委員長・副委員長の選出 委員の互選により委員長・副委員長を選出し、承認を得た。 委員長：中島委員 副委員長：赤坂委員
中島委員長 赤坂副委員長	○委員長・副委員長あいさつ 中島委員長、赤坂副委員長より就任のあいさつを行った。
事務局	○傍聴希望者の有無 傍聴者なし。 ○資料の確認 配付資料を確認した。
事務局	3 議 題 （1）第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和7年度実績）について スライド資料により、第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況について報告。 【概要】 前回、指標の進捗状況について報告した際、確定していなかった令和7年度の実績値について報告する。基本方針1「地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）」の基本施策1「相互理解・共生の推進」の「障害者就労施設等からの物品等の調達実績額」について、令和7年度実績値は1,012万9,376円で確定した。令和8年度目

	標値に対する達成率は 100%となっている。これに伴い、令和7年度の計画全体の達成率が82.9%から83.3%に変更になり、令和6年度を上回った。
中島委員長	事務局からの説明に対し、ご意見はあるか。 5ページの達成率について、令和5年からは下がっているように見えるが、場合によっては下がるものがあるということか。
事務局	コロナの影響で生活困窮などの相談が増えていたものが減ってきたことにより、数値が下がったものもある。
中島委員長	項目によっては、数字が減ったほうがいいのかもということである。
事務局	(2) 第4次所沢市地域福祉計画の素案について スライド資料、資料1により、第4次所沢市地域福祉計画の素案について説明。 【概要】 第3次所沢市地域福祉計画(令和3～8年度)に続き、次期となる第4次計画の策定協議が進められている。地域福祉計画は、人と資源が世代や分野を超えてつながり、誰もが役割と生きがいを持てる「地域共生社会」の実現を目指すものであり、背景には人口減少・高齢化による働き手不足や、血縁・地縁・社縁の弱まりによって従来解決できていた問題が制度の狭間として表面化し、認知症高齢者や不登校・引きこもりの増加、自治会加入者の減少といった課題が生じている状況がある。 計画の位置付けとしては、高齢・障害・こども等の個別福祉計画の上位計画であり、社会福祉協議会の計画と一体的に策定するとともに、上位の所沢市総合計画(「こどもを中心としたまちづくり」等)とも整合性を持たせる。第4次計画は分かりやすさを重視し、具体例を用いつつ文章量を減らし図解を増やす方針で進めている。 スケジュールとしては次回会議の10月23日に素案確定、11月にパブリックコメント、3月完成予定であり、大きく意見を反映できる最後の機会が本日の委員会となる。 資料1のとおり5つの目標と12の施策の方向性、具体的事業(星印は第3次計画で未実施だった新規事業)としているが、12の方向性の中から重点項目を選定する方針で、その選定について検討をしたい。重点項目を定めることで、市や社協が何を重視しているか市民や専門職に伝わると考えている。 事務局提案の重点項目は3つ。①「包括的な相談支援体制の充実」②「見守りつづけること、つながること」③「地域活動への意識の醸成と人材育成」。 さらに、計画全体を貫く共通の取組として、日常で無理なく取り組める活動を通じて顔見知りや地域への愛着を増やし、担い手育成にもつなげるという考えのもと、「あいさつ+1運動」や「ついで(ながら)活動」を提案する。
中島委員長	「あいさつ+1運動」などは、市民の皆さんにも参加していただける取組として事務局が考えてくれている。 お気付きの点などあるか。今まで在籍していた委員は皆さんの意見が反映されている

	か確認していただき、新しい委員は感覚的に気になることでも結構である。
高柳委員	スクールガードとして地域のパトロールを行っており、下校時間に立っているが、ほとんど誰もあいさつをしてくれないので、会釈くらいはしてほしい。ラジオ体操や地域のお祭りを町会で企画しており、子どもから意見をもらって、子ども企画で進めている。あいさつや感謝について、地域として一つ一つ改善していきたいと考えている。
中島委員長	今回、「人」が大きなテーマになっている。コロナ禍以降、人のつながりが弱くなってしまったことや、今まで地域福祉を支えてくださった自治会・町内会、地域のボランティアの高齢化が進み、これから地域をつくってくださる人たちをどう育てていくかということも大きな課題となっている。
高橋委員	「あいさつ＋１運動」とあったが、犬の散歩をしていると、難しい顔をして歩いている人がある。「＋１」の前に、明るい表情であいさつする取組の方がハードルを下げて取り組めるのではないか。
中島委員長	柔らかいあいさつ・呼びかけをするようなスローガンを考えるということですね。 國分委員は、普段、専門的な地域包括の相談に当たっているが、「１ 包括的な支援体制の充実」という点についていかがか。
國分委員	全てに関わることと思っている。どうしても分野ごとの相談になりがちだが、毎日何十件も相談が来る中で、高齢者相談が家族やこどもなど多世代にわたる相談が多いと感じる。公的な部分から民間も含め、協働が必要で、相談を受けた際にどこと連携していくかを視覚的な整備が必要であると思う。所沢市は資源が潤沢なので、それを活用していく上で重点項目とすることは良いことだと思う。地域の方からの相談も多いので、さりげない見守り体制が重要だと感じている。
中島委員長	新しい委員に率直な印象を伺いたい。荒井委員、重点項目の印象はいかがか。
荒井委員	所沢市出身だが、転勤で所沢市を離れていた期間が長く、４年ほど前に戻ってきた。所沢市への愛着があまりなかったが、帰ってきてからは良いまちだなと思っている。若い世代は所沢市への愛着が低いので、所沢市が取組を行っても当事者意識が薄れがちのように感じる。相談体制、見守り、地域活動も「人」あつてのことだと思う。若い世代の流入も増えており、若い世代の関心を集めるための人材育成などは非常に大きいテーマだと思う。８の人材育成はより参加しやすい方法を掘り下げて重点項目にしてほしい。
中島委員長	市民アンケートで 11 行政区を聞いても自分がどこに属するか分からないのではないかと議論になった。駅前が開発されて若い世代がどんどん移住し、それなりに人口は維持されるが、愛着のある人が減っていくのではと問題意識がある。特に中高生は自分の地域を答えられないと思う。

森末委員	夫の仕事の都合で 20 年ほど前に移住してきた。所沢市だけではないが、あいさつについては声をかけづらい雰囲気がある。あいさつや助け合いが当たり前の文化で育ってきたので、あいさつの取組は大切だと思う。
安達委員	自分は所沢市生まれ所沢市育ちである。全てが重点項目だと思うが良い案だと思っている。自分から相談に行けない人、つながれない人のためにも、あいさつができる環境が大切だと思う。こどもには、見守りで腕章やベストを着ている方にはあいさつするように言っているし、学校からも通達が来ているが、知らない人に話しかけられた場合には返事をしないように言っている。地域で顔を知ることができる社会になればいいかと思っている。所沢市は課も多く取組も充実しているが、どこに相談していいかわからず、開設時間も限られていて相談しづらいので、今までの方法のほかにチャットでの質問や SNS での予約など手軽につながれる方法があると良いと感じる。
中島委員長	相談、アクセスのしやすさはとても大事である。10 代は AI を活用して相談できるシステムが当たり前なので、その人たちが 20 代、30 代になることを見据えて、相談の仕方も考えていかないといけない。川崎市は以前から配偶者の暴力について SNS 相談を実施している。また、10 代はほとんど電話を使わないので、自殺相談も SNS が当たり前である。でも、市町村の福祉相談はまだ対面なので、相談のしづらさに関しては大きなテーマだと思う。「包括的な相談支援体制」は、昨今共通のキーワードで、複雑・複合化した困りごとには対応できるが、SOS を出すことを躊躇している人や、相談につながらない人たちとどうつながるか考える必要がある。
大島委員	現行計画では、全体からまとめたものを重点項目として、3 つ出したように見えたが、今回は 12 の施策の方向性から 3 つ選んで重点項目を出したことで明確になっていて、分かりやすくなったと思う。23 ページの全体に共通する発想のロジックを実践として深化していくことで声を上げられない人が上げられるようになったり、周りが気付いてアプローチすることが可能になると思う。23 ページのことを実践する市民が増えることで重点項目が明確になるイメージが湧いたが、どのように入れ込んでいくつもりか。
中島委員長	第 3 次計画を評価するにあたり、事務局が全ての取組を洗い出して、第 4 次計画に取り組んでいる。前回もかなり国の計画を意識しているが、第 4 次の重点項目は、さらにしっかり整理した上で提案されている。
事務局	共通する取組については、素案の 28 ページにある基本理念のところに、達成するために必要な取組として掲載してはどうかと考えている。
小松委員	「こどもまんなか」がもっと強調されると思っていたが、あまりそうでないと感じた。
中島委員長	書き方として少し弱いということである。地域福祉は高齢分野が重視されがちだが、

	障害やこどもの分野も当然必要である。支え合いについては書かれているが、当事者視点が弱いという意見が以前も出ていたので、当事者自身が居場所をつくり社会につながっていく視点が必要である。
吉田委員	所沢市は超高齢社会で、ケアマネジャーとして 130 名ほど担当している。詐欺に気を付けるよう注意しているが、最近是不用品回収詐欺などもある。一人暮らしもかなり増えている中で、防犯面や地域のつながりが希薄になっていることが問題だと思う。
安田委員	ピアサポートをしているが、人間関係を築かないと本音を聞かせてもらえないので、心を開いてもらうまでが大変である。
中島委員長	人とつながれない人が SOS を出せる仕組みは必要だと思う。
赤坂副委員長	民生委員をしていて、こどもを中心に知らない人にも声掛けを心掛けているが、顔を覚えてもらうまでに非常に時間がかかるので、難しい状況だと思っている。でもあきらめずに声掛けは続けていこうと思っている。
中島委員長	以前、防犯のテーマで「わんわんパトロール」という取り組みがあり、こどもたちの下校時間や犯罪が増えている時間帯に犬の散歩をしようという運動である。「ついで（ながら）活動」も、普段の活動のついでにできるというイメージである。練馬区の社協の作業所では小学校と協定を結んで、小学生の下校時間に作業所の障害者の人たちが外に出て、清掃と見守り活動を実施している。キャッチーな言葉があれば皆さんからご意見をいただきたい。 加藤委員、障害者の関係の視点で何かないか。
加藤委員	重点項目として何に取り組んでいきたいかを示すのはいいと思う。今、出ている 3 点に取り組んでいくことで「10 安心・安全なまちづくり」につながるとも思っている。地域福祉の最終的な目標は安心・安全に暮らし続けられることだと思っているので、4 つ目の重点項目として「10 安心・安全なまちづくり」を入れていただけるとありがたい。 重点項目の 3 点だけを見ていくと、障害者についてほぼ触れられていないように感じる。障害者が含まれていることは十分に分かっているが、当事者の方々がこの計画を見たときに取り残されていると感じないよう、見せ方を工夫していただきたい。
中島委員長	こどもや障害者について意識はしているが、骨子として見えていないとのご意見だった。素案全体の説明をしていただいたあと、また意見交換をしたいと思います。
事務局	表紙案、資料 2 により、計画全体について説明。 【概要】 前回委員会の意見を踏まえて素案を作成した。表紙は中央に基本理念を掲げ、それ

	を伝えるイラストを配置し、4つの計画を含むことを記載している。資料2の3ページでは「包括的な支援体制の整備」の図を掲載し、重層的支援体制整備事業もあると思うが、包括的支援体制の強化を主眼として示していく。4ページは近隣区域・福祉圏域(日常生活圏域)・市全域の3層構造の圏域設定を示し、第3次計画にあった小学校区・中学校区は近隣区域の活動主体に含め、まちづくりセンターや児童館についても注記している。5ページは社協CSWの役割を図説している。 再犯防止計画を包含する理由は、6ページの「計画の位置づけ」で説明を加えた。8ページの「計画の期間」では、令和12年度の中核市移行を踏まえ、必要に応じて修正・見直しを行う旨を記載している。 10～27ページの第2章は国の動向、第3次計画までの達成状況、統計・調査データを扱うが、ボリュームが大きいとの意見を受け、細かいデータは83ページ以降の参考資料に移した。28ページからの第3章は基本理念・目標・施策体系、32ページからの第4章は5つの目標・12の施策の方向性ごとに目標、めざす姿、現状、施策内容、市・社協それぞれの取組と指標、地域でできることを記載している。71ページから成年後見制度利用促進基本計画、77ページから再犯防止推進計画を包含し、81ページから第5章(計画の推進)、83ページから参考資料、最後に用語集を掲載予定である。 また、社協活動推進会議のグループワークで出た意見をまとめた資料も配付しており、可能な範囲で計画に反映していく予定である。
中島委員長	いろいろな意見が活かされていると思う。当事者視点を意識して、52ページに「当事者同士が集まる機会の提供」を記載し、53ページには「社協の主な取組み」として「ひきこもり状態にある方など生きづらさを抱えた方の居場所づくり」を記載している。骨子には見えにくいですが、中身としてはいろいろな視点を入れ込んでいる。 全体を通していかがか。
牛窪委員	77ページの所沢市再犯防止推進計画は、令和9年度から地域福祉計画と一緒に施行されるが、地域福祉計画は計画期間6年間の中で社会情勢の変化等に応じて適宜見直しとなっている。今の国の第二次再犯防止推進計画は令和9年までとなり、令和10年には第3次計画が出るので、社会情勢というより国の計画に合わせて見直しをおこなっていただきたい。 「3 計画策定の概要」の3行目に「対象者一人ひとりに寄り添った支援を行うとともに、保護司をはじめとする民間協力者や関係機関と手を取り合い、地域一体となった支援連携ネットワークを構築することを目指します。」とあるが、「保護司をはじめとする民間協力者、関係機関との連携を通じて、地域が一体となって支援を提供するためのネットワーク構築を推進する」として欲しい。
中島委員長	細かいニュアンスだと思うので、保護司として活動されている方が納得できるように文言を調整したいと思う。 策定期間については、所沢市総合計画も令和10年だが、再犯防止推進計画は令和9年までなので、1年で計画が終わってしまうということか。

牛窪委員	第一次が平成 30～令和 4 年、第二次が令和 4～9 年となる。
中島委員長	中核市になると市の体制も変わるので、地域福祉計画も影響を受けるかもしれない。国が計画を作ってから、市で計画を作ると 1 年ずれてしまうので、事務局で確認していただきたい。 成年後見制度が改正したことは書いてあるが、それでどうなるかが書かれていない。後見と補佐がなくなるので、相当混乱すると思う。身寄りのない高齢者について地域福祉計画で記載するか、権利擁護の一環として成年後見制度利用促進基本計画で記載するか検討する必要がある。
高橋委員	身寄りのない方の死後のお墓の問題や手術する際の医療同意について、所沢市は一人暮らしの方がかなり増えており、6 年後にはさらに増えてくるので、地域福祉計画に盛り込むのか、成年後見制度もしくは高齢者の計画に入れていくのか、市民の方にとって大きな問題だと思う。
中島委員長	豊島区や練馬区でも計画に入れ込んでいる。練馬区では計画策定後に法改正となったので、見守り・入退院支援・死後事務の新しい仕組みを社協で作り、進行管理で入れていた。6 月に法改正したばかりだが、計画策定は 3 月なので、全く触れないわけにもいかない。先がまだ見えていないので難しいが、どこまで盛り込めるか検討したほうがいい。「いつまでに検討します」ということまでは書けると思う。 概ねいただいた意見は事務局が入れる努力をしていると思うが、ご指摘のように見えにくい部分がある。コラムのようにするか、骨子の中に「こども」、「当事者」という言葉を入れるのがいいのか。総合計画に「こどもを中心」とあるが、こどもが真ん中に出るような書き方の地域福祉計画はあまり多くないので、入れるとすると所沢の個性になると思う。支援を受ける立場にあった当事者の活躍支援や社会参加がもっと目立つように作るのも面白いと思う。 基本的な骨子の方向性としてはこれでご了承いただいたこととし、文言を調整する。
事務局	(3) 所沢市地域福祉推進委員会の運用について スライド資料により、所沢市地域福祉推進委員会の運用について報告。 【概要】 27 ページのとおり、第 4 次所沢市地域福祉計画については、第 3 次までは市の計画と社協の活動計画が別々だったが一体的に策定することになった。委員会も一体化した方がいいという意見があり、検討している。一体化した際は、計画の進捗について市・社協両方について同じ会議で検討することになる。社協では「CSW 実践・地域活動部会(仮)」という形で具体的な社協の取組を検討できる場を維持していく予定と聞いている。一体化した際の委員構成は、今後、市と社会福祉協議会で協議して決めていきたいと考えている。

加藤委員	一体化した委員会はいつから運用されるのか。
事務局	計画策定のタイミングもあると思うが、まだ確定していないので、検討を進めていきたい。
中島委員長	計画策定後の来年4月1日以降となると思う。基本的にこの委員会が母体になると思う。
事務局	4 その他 【地域福祉みらいフォーラムについて】 地域福祉みらいフォーラムのチラシを配布し、実施する旨を説明した。 【次回会議日程】 令和8年10月23日（金）、午後2時～、未来館多目的室1・2号にて開催
瀧澤部長	新しい体制で協議をいただき、感謝申し上げます。
赤坂副委員長	5 閉会挨拶 赤坂副委員長が閉会の挨拶をした。 6 閉 会